

野西、青森山田決勝へ



【準決勝・八学光星vs青森山田】前半、八学光星は斉藤涼平(右から2人目)がシュートを決め、1-2とする。八戸市アライフリースタジアム

全国高校サッカー
青森県大会2次予選

第104回全国高校サッカー選手権青森県大会2次予選は26日、八戸市のアライフリースタジアムで準決勝2試合を行った。夏の県高校総体王者の八学野西は八戸西に1-0で勝利し、9年連続の決勝進出。スーパージョーの青森山田は八学光星を7-1で下し、29連覇に王手をかけた。

決勝は10月2日、青森市カクヒログループアスレチックスタジアムで行われる。正午キックオフ。

(丹代 浩太)

▽決勝
八学野西 1-0 八戸西

▽得点 関下(野)

青森山田 7-1 八学光星

4-0

▽得点 森原2、長谷川、深瀬3、杉山(青)、斉藤(八)

「力足りなかった」涙 光 星

○…八学光星はスーパージョーの青森山田に敗れ、9年ぶりの決勝進出はならぬ。白取獅護主将は「相手の方が一回りも二回りも上だった。3年間の集大成を出そうと

思ったが、力が足りなかった」と天粒の涙を流した。前半は持ち味の粘りを

見せた。2点を先行された場面、白取主将のロングパスを受けた斉藤涼

平が「自分が決めるしかない」とゴールポストすれすれに左足で決め、意地の1点を返した。ただ、その後はドリブル突破を許すなど猛攻を浴び、連続失点を重ね

た。不本意な結果となったが、畑中孝太監督は「厳しい中でも最後までファイティングポーズを取り続けてくれた」とイレブンの健闘をたたえた。新チームの中心を担う

斉藤は「もつと個人個人が戦えるチームをつくりたいかなければ」と責任感を胸に雪辱を誓った。

堅守八西を押し切る 野 西

○…夏の王者・八学野西は八戸西との接戦を制し、9年連続の決勝進出を決めた。決勝点を奪ったのは2年の関下煌己。味方に供給したクロスボールが風に流されてゴールネットを揺らし、「本当に入ったのかとびっくりした」と驚きながら勝利を喜んだ。

八学野西は前半から果敢なプレスで主導権を握ったが、相手の5バツクに阻まれて得点機を生かせず。互いに無得点のまま試合を折り返した。

風上に立った後半はロングボールを駆使して攻め込んだ。思わぬ形で試合が動いたのは13分。左サイドから上げた関下のクロスボールが追い風

の後押しを受け、そのままゴールに吸い込まれた。決勝の相手は28連覇中の青森山田。全国屈指の強豪だが、夏の県高校総体では撃破した。関下は「(決勝が行われる)1週間後に向けて気持ちを切り替え、最大の準備をして臨みたい」と奮起



【準決勝・八学野西vs八戸西】後半、得点を決めチームメイトと喜ぶ八学野西の関下煌己(右)